※現在、発表順など調整中のため、暫定版となります。

プログラム

オンデマンド配信期間：7 月 14 日（月）11:00 ～ 31 日（水）17:00
対象セッション：シンポジウム 1 ～ 7
※会長企画、教育セミナー、共催セミナーについては、オンデマンド配信はありません。

7 月 4 日（金）

8:50 - 8:55

開会挨拶　藤原洋記念ホール

大会長 西原 広史（慶應義塾大学医学部・教授/がんゲノム医療センター長、臨床研究推進センター・生体試料研究支援部門長）

8:55 - 9:00

学会長挨拶・学会紹介　藤原洋記念ホール

西原 広史（クリニカルバイオバンク学会 学会長）

9:00 - 10:30

シンポジウム 1
「がんゲノム医療の現在地」　藤原洋記念ホール

大会長のつぶやき：
我が国で保険診療にてがんゲノムプロファイリング検査が承認されて６年が経過したが、検査制度や治療出口戦略においてまだまだ数多くの課題が残されています。海外はどうなっているんだろう…？より効果的ながんゲノム医療の実現に向けて、どのような課題があるのか、がんゲノム医療のエキスパートが教えてくれる !?

座長：武藤 学（京都大学）
池田 貞勝（東京科学大学）

S1-1　先進医療B：標準治療前のがん遺伝子パネル検査の有用性を評価する多施設共同前向き研究FIRST-Dx studyの1年フォローアップデータ
○松原 淳一、武藤 学
京都大学大学院医学研究科 腫瘍内科学

S1-2　日本におけるコンパニオン診断薬（CDx）vs. 包括的ゲノムプロファイリング（CGP）検査
○鹿毛 秀宣
東京大学大学院医学系研究科　呼吸器内科学

S1-3
○池田 貞勝
東京科学大学がんゲノム診療科

S1-4　CGPを起点としたtumor-informed ctDNAモニタリングの実装可能性
○西塚 哲
岩手医科大学医歯薬総合研究所

10:40 - 12:10

シンポジウム 2
「全ゲノム解析の臨床実装に向けて」　藤原洋記念ホール

大会長のつぶやき：
全ゲノム解析等実行計画がスタートして約３年が経過し、約２万症例の解析が終了した。同時に、難病やがんに対する臨床検査として全ゲノム解析を実施するための体制整備も始まっているが…技術、費用、有用性の観点から実現可能性はあるのだろうか？？研究、患者還元、インフォマティクス、検査精度管理…それぞれの立場の皆さん、ご意見を！

座長：谷嶋 成樹（株式会社テンクー／株式会社CyberomiX）
中村 康平（慶應義塾大学）

S2-1　基礎研究における全ゲノム解析の活用
○田中 庸介
国立がん研究センター研究所

S2-2　全ゲノム解析の臨床実装に向けた取り組みとその課題
○角南 久仁子
国立がん研究センター中央病院　臨床検査科

S2-3　全ゲノム解析を支える情報技術と産業界から貢献できること
○西村 邦裕
株式会社テンクー

S2-4　全ゲノム解析は“検査”になり得るのか？—臨床検査機関からの視点
○中林 武尊、湯原 悟志、郡 健一朗、林 浩志、蝶野 和子、有田 泰久
株式会社エスアールエル

12:30 - 13:20

ランチョンセミナー 1
「全ゲノムシーケンス解析による臨床応用の最前線
— 新たなソリューションのご提案—」
共催：住商ファーマインターナショナル株式会社　多目的教室 1

座長：嶋多 涼子（住商ファーマインターナショナル株式会社）

Transforming Cancer Care through Whole Genome Sequencing, Data, and AI
○Jeong Seok Lee
Co-Founder and Chief Innovation Officer, Inocras

日本のがんゲノム医療の現状と、WGSを活用した新たなプログラムによるMRD検出の挑戦
○西原 広史
慶應義塾大学医学部がんゲノム医療センター 教授（センター長）

12:30 - 13:20

ランチョンセミナー 2

共催：三菱電機ソフトウエア株式会社　　多目的教室 2

座長：中村 康平（慶應義塾大学）

がんゲノム医療の出口から逆算した支援体制の構築

○水野 孝昭

慶應義塾大学 がんゲノム医療センター

13:30 - 14:30

会長企画パネルディスカッション

「日本のバイオバンクの過去、現在、将来」　　藤原洋記念ホール

日本のバイオバンクは、大規模に検体・情報を収集するナショナルバイオバンクと、診療施設併設型バイオバンクに大別される。 また、バイオバンクの運営形式で見ると、ナショナルバイオバンクの多くが採用しているコホート型バンキングと、診療施設併設型バイオバンクの多くが対応するオンデマンド側バンキングがある。その両者ともそれぞれ利点、欠点があり、また、利用者側のニーズも多種多様であり、様々な形式のバイオバンクがあることは日本のバイオバンクの強みである。今後、ゲノム医療が発展していく中で、バイオバンクの利活用促進は、日本の未来医療のカギを握っていると言うことが出来るであろう。しかし、現実的に日本の研究者の多くが未だに研究用臨床検体を海外から購入し、多くの研究費が海外に流れている状況は改善されておらず、日本のバイオバンクの利活用が十分に浸透しているとは言い難い状況である。果たして、何がその原因なのか？システムの問題なのか？情報不足なのか？研究倫理の問題なのか？行政対応の問題なのか？研究者サイドの考え方なのか？…舌鋒鋭いパネリストを招き、卓越したマネジメント能力を持つ司会者による、60分ガチンコ勝負のパネルディスカッションに是非ご参加下さい！

座長：長神 風二（東北大学）
武藤 学（京都大学）

パネリスト　武藤 香織（東京大学）
平沢 晃（岡山大学）
満田 潤（文部科学省 研究振興局）
松浦 祐史（厚生労働省 医政局）
渡辺 亮（株式会社CyberomiX）

14:40 - 16:10

シンポジウム 3

「医薬品・医療機器承認の現状と今後の展望」　　藤原洋記念ホール

大会長のつぶやき：
がんゲノム医療の現場では、適応外使用で薬剤を使いたい…研究用試薬を用いてゲノム検査を実施したいケースに多々遭遇します…。評価療養、選定療養、IVD、LDT…まずは医薬品・医療機器承認制度を理解し、その上で今後のがんゲノム医療の将来展望について議論しましょう。

座長：松下 一之（千葉大学）
西原 広史（慶應義塾大学）

S3　**概要説明**

○西原 広史

S3-1　がんゲノム医療の推進について（保険外療養費制度も含む）
○千葉 晶輝
厚生労働省健康・生活衛生局がん・疾病対策課

S3-2　保険診療下でのがん遺伝子パネル検査におけるCDx活用の課題
－乳がんを中心として－
○深田 一平
がん研究会有明病院　ゲノム診療部

S3-3　国内でnon-IVD（LDT）、LTS（LDT service）を国内で医療実装するために必要なこと
○松下 一之
千葉大学医学部附属病院　検査部・臨床検査科/がんゲノムセンター/遺伝子診療部

S3-4　コンパニオン診断の薬事にまつわる経緯と今後
○牧野 友彦
厚生労働省医薬局医療機器審査管理課

16:20 - 17:00 スイーツセミナー 1
共催：NTT プレシジョンメディシン株式会社　多目的教室 1

座長：西原 広史（慶應義塾大学）

リアルワールドデータの多施設統合解析を実現するJPP :Japan Precision-medicine Platform
稲家 克郎[2]、○岡田 昌史[1]
[1]新医療リアルワールドデータ研究機構株式会社、
[2]ＮＴＴプレシジョンメディシン株式会社

16:20 - 17:00 スイーツセミナー 2
共催：イルミナ株式会社　多目的教室 2

座長：豊岡 伸一（岡山大学）

TSO500を用いた先進医療Ｂの実施と解析結果
○冨田 秀太
岡山大学病院　ゲノム医療総合推進センター

新たながん遺伝子パネル検査「TruSight™ Oncology Comprehensive パネルシステム」の概要
○北野 敦史
イルミナ株式会社

17:10 - 17:40 ポスター発表・展示　P-01 ～ 18　多目的教室 3

18:30 - 20:30 情報交換会　ファカルティラウンジ　ファカルティラウンジ

7月5日（土）

8:30 - 9:10

教育セミナー 1

後援：一般社団法人日本生物資源産業利用協議会　　多目的教室 1

座長：岡野 和広
（一般社団法人日本生物資源産業利用協議会/アジレント･テクノロジー株式会社）

ミスを防ぐ！内部監査の基本と現場対応（紹介編）

池田 純子[1]、○藤井 紳一郎[1,2]、中江 裕樹[1]、三澤 恵子[1]、岡野 和広[1,3]、中嶋 祥人[1,4]、小林 博幸[1,5]
[1]一般社団法人日本生物資源産業利用協議会、
[2]国立研究開発法人産業技術総合研究所、[3]アジレント・テクノロジー株式会社、
[4]サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社、[5]塩野義製薬株式会社

8:30 - 9:10

教育セミナー 2

共催：株式会社モルフォテクノロジー　　多目的教室 2

座長：西原 広史（慶應義塾大学）

病理診断のためのクリニカルシークエンスと検体品質

○赤羽 俊章[1,2]、谷本 昭英[2]
[1]鹿児島大学病院腫瘍センター、[2]鹿児島大学大学院腫瘍学講座病理学分野

9:20 - 10:40

シンポジウム 4

「ゲノム研究に必要とされるバイオバンク —国民の啓発も含めて— 」

藤原洋記念ホール

大会長のつぶやき：
北欧ではナショナルバイオバンクが国民の理解を得て、検体保管やゲノム解析、そしてサンプルや情報の利活用が進んでおり、多くの国民が幼少時にバイオバンク登録するそうです。しかし、我が国では、そもそもバイオバンクという言葉を知らない国民が多く、ゲノム医療の教育もほとんどありません。今こそ、ゲノム研究、バイオバンクに関する教育の在り方を議論すべきでは？

座長：荻島 創一（東北大学）
山本 英喜（岡山大学）

S4-1　遺伝診療およびゲノム研究リソースに対する患者・市民参画（PPI）への取組み

○深野 智華[1,2]、荒木 もも子[4]、藤田 裕子[5]、平沢 晃[1,3]
[1]岡山大学大学院学術研究院医歯薬学域臨床遺伝子医療学、
[2]東京科学大学リサーチインフラ・マネジメント機構生命倫理センター、
[3]岡山大学病院臨床遺伝子診療科、
[4]島根大学医学部附属病院臨床遺伝・ゲノム医療センター、
[5]姫路赤十字病院遺伝子診療科

S4-2　ゲノム研究における公的基盤としてのバイオバンクの役割とその活用方法

○松田 浩一
東京大学大学院新領域創成科学研究科

S4-3　バイオバンクと市民：ゲノムに関するコミュニケーションと参画

○長神 風二
東北大学東北メディカル・メガバンク機構

S4-4　全ゲノム解析に必要な検体品質管理、臨床検査医学の観点から
—ISBER ベスト・プラクティス日本語訳（第5版）発刊に関連して—

○松下 一之
千葉大学医学部附属病院　検査部・臨床検査科/がんゲノムセンター/遺伝子診療部

10:50 - 12:20

シンポジウム 5
「ISO15189とISO20387の融合—臨床検査とバイオバンキングの未来—」

藤原洋記念ホール

大会長のつぶやき：
臨床検査、バイオバンクともに、その精度管理は必要不可欠である。国際標準化機構は、臨床検査に対してISO15189、バイオバンクに対してISO20387を制定しているが、この両者はどこが違う？もし、バイオバンク検査を用いて臨床検査をする場合を考えたら、どっちの基準を順守したらよいのでしょう？

座長：森崎 隆幸（東京大学）
　　田澤 裕光（京都大学）

S5-1

○中江 裕樹
一般社団法人日本生物資源産業利用協議会

S5-2　バイオバンク自己点検票：2周の自己点検の実施報告

○森田 瑞樹[1]、川野 竜太郎[2]、小原 有弘[3]、竹内 朋代[4]、田中 敏博[5]、永田 有希[5]、西原 広史[2]、服部 功太郎[6]
[1]岡山大学、[2]慶應義塾大学、[3]医薬基盤・健康・栄養研究所、
[4]筑波大学附属病院、[5]東京科学大学、[6]国立精神・神経医療研究センター

S5-3　NCNPバイオバンクにおけるISO 20387の実装と衛生検査所への展開

○服部 功太郎
国立精神・神経医療研究センター　メディカル・ゲノムセンター　バイオリソース部

S5-4　台風（認定）一過

○新飯田 俊平
国立長寿医療研究センター 研究所

S5-5

○末岡 榮三朗
一般社団法人ゆうあい社会福祉事業団未来型医療研究所

S5-6　ISO20387取得への歩みと今後の展望

○岡野 隆一[1]、佐藤 伊都子[3]、勝亦 柚衣[2]、金 貞姫[3]、林 ひろ子[2]、藤原 明子[1]、森本 耕平[1]、中村 恵宣[1]、松岡 広[1]
[1]神戸大学医学研究科未来医学講座バイオリソース・ヘルスケア統合解析科学、
[2]神戸大学医学部附属病院　バイオリソースセンター、
[3]神戸大学医学部附属病院　検査部

12:40 - 13:30

ランチョンセミナー 3

共催：株式会社 CyberomiX　　多目的教室 1

座長：渡辺 亮（株式会社CyberomiX）

VISIUM HD空間トランスクリプトームが解き明かす卵巣扁平上皮癌の進化

○中村 康平

慶應義塾大学医学部がんゲノム医療センター

12:40 - 13:30

ランチョンセミナー 4

共催：富士通株式会社／富士通 Japan 株式会社　　多目的教室 2

座長：會田 裕昭（富士通Japan株式会社）

診療情報とゲノムが拓く未来：統合システムによる次世代医療基盤の構築

會田 裕昭[1]、石黒 利幸[2]、○関田 愛子[2]、吾妻 光洋[1]、岩本 和樹[1]

[1]富士通株式会社、[2]富士通Japan株式会社

○勝田 江朗

富士通株式会社

13:40 - 15:10

シンポジウム 6

「あらためてバイオバンクのあり方と利活用を問い直す」

藤原洋記念ホール

大会長のつぶやき：
バイオバンク利活用の促進に向けて、AMEDは長年にわたり研究開発事業を実施し、クリニカルバイオバンク学会も毎年シンポジウムでこのテーマを取り上げてきました。それによって何がどのように変わってきたのでしょう？企業側のニーズや法制度も変わってきているような気がしますが…バイオバンク利活用の方向性を今一度、皆さんで確認しませんか？

座長：荻島 創一（東北大学）
森田 瑞樹（岡山大学）

S6-1

○米村 滋人

東京大学大学院法学政治学研究科

S6-2

○井上 悠輔

京都大学大学院医学研究科

S6-3　個人情報を利用した研究開発の進め方

○櫻井　淳

岡山大学病院新医療研究開発センター

15:20 - 16:50

シンポジウム 7
「医療 AI、デジタル医療情報の活用の方向性」　藤原洋記念ホール

大会長のつぶやき：
医療ビッグデータに基づく医療AI開発…という言葉を聞くようになって数年経ちました。ChatGPTも日常で使われるようになり、実際、AIはもう医療の一部に入ってきているはずです。でも、正直、はっきりとその姿が見えていないような気がするのは自分だけでしょうか…？今、医療AIはどこまで来ている？デジタル医療機器の進歩と利活用の現状を知りたいです！

座長：西原 広史（慶應義塾大学）
　　冨田 秀太（岡山大学）

S7-1　AI as a driving force for adoption of digital pathology workflow

○Joe Yeh
aetherAI Co., Ltd.

S7-2　自然言語処理による医療情報の高度活用：大規模言語モデル時代の新たな可能性

○竹内 俊貴
株式会社テンクー

S7-3　次世代医療基盤法を始めとする医療データ利活用の動向

○日野 力
内閣府健康・医療戦略推進事務局

S7-4　医療情報とAIの融合が切り拓く次世代医療とヘルスケアサービス

○峰晴 陽平[1,2,3]、内野 詠一郎[2]、渡邉 拡人[4]、平井 啓[5]、吉田 安里[4]、糀谷 泰彦[1,2,6]、松本 麻見[2,7]、小清水 宏[7]、玉田 嘉紀[8]、奥野 恭史[1,2]
[1]京都大学大学院　医学研究科　健康医療DX講座、
[2]京都大学大学院　医学研究科　ビッグデータ医科学、
[3]京都大学医学部附属病院　脳神経外科、[4]阪急阪神ホールディングス、
[5]大阪大学大学院　人間科学研究科、[6]京都大学医学部附属病院　循環器内科、
[7]オムロンヘルスケア、[8]弘前大学　健康・医療データサイエンス研究センター

16:50 - 17:00

次回シンポジウム紹介　閉会挨拶　藤原洋記念ホール

ポスター発表　多目的教室 3

P-01　次世代PBMC自動採取装置（電極チップ）を用いたPBMCバンキングの標準化と実装

○田澤 裕光[1]、菊池 理[1,3]、古谷 由希[1]、松浦 夕子[1]、田中 日奈子[1]、田島 秀二[5]、澤上 一美[5]、中村 和博[4]、瀬川 修[4]、武藤 学[1,2]
[1]京都大学医学部附属病院クリニカルバイオリソースセンター、
[2]京都大学医学部附属病院 腫瘍内科、
[3]京都大学大学院医学研究科附属がん免疫総合研究センター、
[4]プレシジョン・システム・サイエンス株式会社、
[5]ユニバーサル・バイオ・リサーチ株式会社

P-02　診療機関併設型バイオバンク京大病院クリニカルバイオリソースセンターのグローバルレベルの品質マネジメントと標準化の取り組み

○田澤 裕光[1]、菊池 理[1,3]、古谷 由希[1]、松浦 夕子[1]、田中 日奈子[1]、板倉 佳奈美[1]、武藤 学[1,2]
[1]京都大学医学部附属病院クリニカルバイオリソースセンター、
[2]京都大学医学部附属病院 腫瘍内科、
[3]京都大学大学院医学研究科附属がん免疫総合研究センター

P-03　バイオバンクの品質マネジメントシステムを利用した衛生検査所の設立

○五十嵐 愁子[1]、髙橋 祐二[2]、舘野 こずえ[1]、藤田 梢[1]、後藤 雄一[3]、服部 功太郎[1]
[1]国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター　メディカル・ゲノムセンター　バイオリソース部、
[2]国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター　脳神経内科診療部、
[3]国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

P-04　開設から7年が経過したキャンサーバイオバンク愛知の現状

○中田 舞、伊藤 智子、井本 逸勢、松尾 恵太郎
愛知県がんセンター研究所

P-05　非小細胞肺癌におけるAmoyDx®肺癌マルチ遺伝子PCRパネル検査検査に適した検体条件の検討

○客野 深緒[1]、井上 博文[1]、青江 伯規[1]、三宅 雅之[2]、槙本 剛[3]、二宮 貴一朗[4]、枝園 和彦[5]、豊岡 伸一[6]
[1]岡山大学病院　医療技術部　遺伝子・ゲノム融合推進検査室、
[2]倉敷芸術科学大学　生命医科学科、[3]岡山大学病院　呼吸器内科、
[4]岡山大学病院 ゲノム医療総合推進センター、[5]岡山大学病院　呼吸器外科、
[6]岡山大学学術研究院　医歯薬学総合研究科　呼吸器・乳腺内分泌外科学

P-06　海外輸送時に発生したサンプル容器の底面コード破損について

○漢人 真由美、辰巳 めぐみ、金児 温那、服部 功太郎
国立精神・神経医療研究センター、メディカル・ゲノムセンター、バイオリソース部

P-07　東北メディカル・メガバンク計画バイオバンクの分譲実績とリソースを利用した論文の分析に基づいた研究対象疾患の傾向

○松原 博子、山口 由美、舘野 穣、信國 宇洋、大根田 絹子
東北大学東北メディカル・メガバンク機構

P-08　バイオバンク保管細胞株の継代に伴うゲノム変化の解析

○永田 有希、高橋 綾子、松田 真希子、森 留美、田中 敏博
東京科学大学疾患バイオリソースセンター

P-09　低温・極低温環境での保管に適した2次元コード付きチューブの検証

○中嶋 祥人
サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社　ラボプロダクツ事業部

P-10　バイオバンク・ジャパン：利活用促進と医療実装にむけた情報拡充・双方向バイオバンクへの取り組み

○森崎 隆幸[1,2]、鎌谷 洋一郎[1,2]、岡田 随象[1,3]、熊坂 夏彦[1,4]、永井 亜貴子[1,5]、武藤 香織[1,5]、松田 浩一[1,2]

[1]東京大学医科学研究所 バイオバンク・ジャパン、
[2]東京大学大学院新領域創成科学研究科、[3]東京大学大学院医学系研究科、
[4]東京大学医科学研究所 デジタルゲノミクス分野、
[5]東京大学医科学研究所 公共政策研究分野

P-11　診療科横断的な包括同意取得を支える電子同意とカルテ連携の構築

○臼杵 恵梨[1]、藤井 武宏[2]、佐野 龍樹[2]、宇野 幸子[1]、藤森 大樹[3]、藤川 慧[3]、李 星宗[3]、今井 裕[4]、三室 マヤ[4]、松田 知世[1]、中野 仁嗣[1]、土肥 薫[2]、渡邉 昌俊[5]、池田 智明[5]、江口 暁子[1]

[1]三重大学医学部附属病院、バイオバンクセンター、
[2]三重大学医学部附属病院、医療情報管理部、
[3]京セラドキュメントソリューションズジャパン株式会社、
[4]三重大学医学部附属病院、病理診断科、[5]済生会松阪総合病院

P-12　聖路加国際大学バイオバンクの紹介

○木村 武志[1,4]、越坂 卓也[3]、大竹 淳矢[1,3]、恩田 貴志[4]、森 愼一郎[1,2,3]

[1]聖路加国際大学　研究管理部　バイオバンク室、
[2]聖路加国際大学　研究管理部　共同実験室、
[3]聖路加国際大学　研究管理部　産官学連携室、
[4]聖路加国際病院附属クリニック予防医療センター

P-13　つくばヒト組織バイオバンクセンターで実施している分譲事例の紹介

○伴瀬 瑛理佳[1]、竹内 朋代[1]、古志 美詠子[1]、本嶋 身和子[1]、坂本 規彰[1,2]、松原 大祐[1,2]、西山 博之[1,2]

[1]筑波大学附属病院つくばヒト組織バイオバンクセンター、[2]筑波大学医学医療系

P-14　大規模言語モデル（LLM）を活用した研究ごとの推奨SOP作成の作業効率向上の試み：論文収集と情報抽出を通じて

○福田 俊[1]、本城 美奈[2]、田沼 萌[2]、森田 瑞樹[1,2,3]

[1]岡山大学病院バイオバンク（岡大バイオバンク）、
[2]岡山大学医学部保健学科検査技術科学専攻、
[3]岡山大学学術研究院ヘルスシステム統合科学学域

P-15　岡山大学病院バイオバンクにおける保管試料のスペース確保の取り組み

○柴倉 美砂子[1]、岩木 麻希子[1]、江見 裕美[1]、清水 拓郎[1]、那須 遥[1]、福田 俊[1]、松原 岳大[1]、室﨑 眞奈[1]、山本 英喜[1,2]、森田 瑞樹[1,3,4]、豊岡 伸一[1,5]

[1]岡山大学病院バイオバンク、
[2]岡山大学学術研究院医歯薬学域　臨床遺伝子医療学分野、
[3]岡山大学学術研究院ヘルスシステム統合科学学域　生体情報科学分野、
[4]岡山大学医学部保健学科　検査技術科学専攻、
[5]岡山大学学術研究院医歯薬学域　呼吸器・乳腺内分泌外科学分野

P-16　AI解析心電図とPolygenic Risk Scoreによる心房細動早期診断

○高橋 健太郎[1]、森 留美[1]、高橋 綾子[1]、松田 真希子[1]、笹野 哲郎[2]、田中 敏博[1]

[1]東京科学大学　疾患バイオリソースセンター、[2]東京科学大学　循環器内科

P-17　岡山大学病院バイオバンクの取り組み

○岩木 麻希子[1]、江見 裕美[1]、柴倉 美砂子[1]、清水 拓郎[1]、那須 遥[1]、福田 俊[1]、松原 岳大[1]、室﨑 眞奈[1]、山本 英喜[1,2]、森田 瑞樹[1,3,4]、豊岡 伸一[1,5]

[1]岡山大学病院バイオバンク、
[2]岡山大学学術研究院医歯薬学域　臨床遺伝子医療学分野、
[3]岡山大学学術研究院ヘルスシステム統合科学学域　生体情報科学分野、
[4]岡山大学医学部保健学科　検査技術科学専攻、
[5]岡山大学学術研究院医歯薬学域　呼吸器・乳腺内分泌外科学分野

P-18　An AI-Driven Predictive Model for Assessing Disease Risk for 8 Common Diseases and Cancers in the Japanese Population Based on Genetic and Lifestyle Factors

○David D. Ordinario
Genesis Healthcare Co.